令和四年度　社会人入学試験（B日程）小論文

徳山看護専門学校

受験番号
氏　　名

得　　点

教育者・東井義雄先生は、校長室に「いくら回されても針は天極を指す」という詩人・高村光太郎の言葉を掲げておられました。針とは方位磁針。いくら回されても磁針は必ず天極をぴたりと指して止まる。東井先生は「私の天極はもちろん『子供』です。」と言っておられます。その東井先生が命についてこのようなことを言われています。

鮭（サケ）は、自分を産んでもらった川をさかのぼってでなければ、卵を産まないと聞いている。自分の卵を産む場所を求めて、どこまでもどこまでも必ずそこまでさかのぼっていくと聞いている。私はこのことを思うだけでも心が震えてくる。弱い一匹の鮭の中で燃えている激しくも悲壮な魂。産むということは、どんなに悲壮なことなのかと思う。何を好んで、その母の母鮭や、何代もの母鮭が血を流した場所を求めるのか。愚かなことだと笑ってはならない（略）。鮭も人もない。産むということは幾千万年の遠い母から、必死に産み伝えられてきた必死の行。遠い先祖たちが代々伝えてきた人間という命をつなぐ祈念の行。私という人間が、今、ここに生きているということ、それは、先祖たちの必死の祈念が今ここにあるということ。そうに違いない。

（致知出版社・いのちの言葉）※少し変えています。

これから看護の世界を目指すあなたに天極は必要です。あなたは何を天極に置きますか。その上で、枠の中の東井先生の言葉をどう受け止めますか。原稿用紙の決まりに従い、段落を適切にとり、分かりやすい文章であることに心掛けて、六百字以内にまとめてください。

（二十五×二十四行）